

『ディス・イズ・マイ・トゥルース』

ヤスミン・ラーマン//作  
静山社 (Y933デ)

アマニには誰にも言えない秘密があった。それは父親が母親に暴力を振っていること。家族がバラバラになるのが怖くて親友のフーダにもこのことを打ち明けられずにいた。しかし、あるときその秘密を知られることとなる。一方でフーダにも秘密があって…。



『夜空にひらく』

いとう みく//著 アリス館 (YFイ)

17歳の円人は、バイト先で傷害事件を起こし逮捕される。その後、試験観察処分となった彼は、補導委託先である花火を製造する煙火店で暮らすこととなる。温かく迎えられたが、家族から愛情をかけてもらった記憶がない円人は戸惑う。しかし、次第に自分の居場所を見つけていく。



『ルール!』

工藤 純子//著 講談社 (YFク)

中学2年の知里の学校には、スマホは緊急時を除き登下校中も使ってはいけないという校則がある。しかし、その校則を破ってしまった知里は先生にスマホを没収されてしまう。返してもらうには反省文を書き、それを読み上げる決まりなのだが、彼女にはどうしてもそれができなかった。これをきっかけに校則の理不尽さに気づいた知里は、部活仲間たちと校則を変えようと活動を始める。



『川滝少年のスケッチブック』

小手鞠 るい//作  
講談社 (YFコ)

深青の祖父は、少年時代のことをスケッチブックに漫画を交えながら記録していた。そこには昭和の暮らしとともに、戦争のことも記されていた。ニューヨークで暮らす深青の目に日本の戦争はどう映ったのか。

電子書籍でも読めます



『綾瀬はるか  
「戦争」を聞く [1]』

TBSテレビ『NEWS23』取材班//編  
岩波書店 (Y210ア)

女優の綾瀬はるかさんが自身の祖母をはじめ、被爆者や沖縄戦などの戦争被害にあった人々を訪ね、どんな経験をしてきたのかをインタビューします。



『うたうとは小さいのちひろいあげ』

村上 しいこ//著 講談社 (YFム)

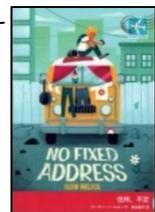
中学から仲の良い綾美と同じ高校に入学した桃子。しかし、綾美は2日間学校へ来た後、引きこもりになってしまう。桃子は彼女のことを気かけ、ときどき家にも行っていたが、それを負担に感じるようになる。そんな中、桃子が入部した「うた部」が短歌甲子園に出ようということになる。しかし、出場するには部員が一人足りない。そこで、綾美を部員にしようという話が出るのだが…。



『住所、不定』

スーザン・ニールセン//作 岩波書店 (Y933ジ)

事情により住む場所を失ったフィーリックスと母親のアストリッドは、キャンピングカーで生活している。こんな生活はすぐに終わると思っていたのに長引いていく。フィーリックスは母親にこの状況を打開するため誰かに相談すべきだと提案するが、聞き入れてもらえない。不安定な生活が続き、友達にも住所がないことを言えずに嘘をついている状況にフィーリックスは徐々に追いつめられていく。



『雨にシュクラン』

こまつ あやこ//著 講談社 (YFコ)

志望校に合格し、憧れていた部活にも入ることができた真歩。しかし、家庭の事情で引っ越しをしたことで、通学に往復5時間かかることになってしまう。まわりからは転校をすすめられるが、彼女は高校中退を選ぶ。そして、中退後に始めた図書館の宅配ボランティアがきっかけでアラビア書道に出会う。

電子書籍でも読めます



『ぜつぼうの濁点』

原田 宗典//作 柚木 沙弥郎//絵  
教育画劇 (Eユ/Eゼ)

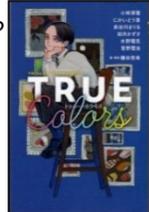
長年「ぜつぼう」に仕えていた「II」(濁点)は、主を不幸にしているのは自分のせいだと思っていた。そこで主から離れ、新しい主を探すことを決心する。はたして受け入れてくれる言葉は現れるのか?



『TRUE Colors』

小林 深雪//ほか[著]  
講談社 (YFト)

中学生とジェンダーをテーマに書かれた6つの物語が入った短編集。



『考えたことなかった』

魚住 直子//著 偕成社 (YFウ/913カ)

ある日、突然猫に話しかけられた颯太。この猫は未来の自分で、将来ひとりでもじめな最期を迎えそうだから忠告をしに来たと言いつつ。この猫との出会いや、祖父母の関係を見ることなどで颯太はこれまであまり意識していなかった男女の役割について考えることになる。



『あの子のことは、なにも知らない』

栗沢 まり//作 ポプラ社 (YFク)

中学3年生の美咲は、卒業祝賀会を2週間後に控えている。彼女は祝賀会の実行委員を務めており、そこで使うための写真を集めているのだが、2ヶ月前に転入してきた和也だけ提出が遅れていた。早く出すようせっつく美咲だが、和也には写真が出せない事情があった。やがて美咲は、和也の家庭が抱えている貧困問題を知る。



『ぼくたちはまだ出逢っていない』

八束 澄子//[著] ポプラ社 (YFヤ)

母親の再婚をきっかけに岡山から京都へ引っ越してきた美雨は、家に居場所がないと感じている。一方、陸は同級生から暴力を受け、10円ハゲができるほど悩んでいた。そんな二人が出会ったのは「金継ぎ」だった。金継ぎを通して二人はどのように変わっていくのか。



『認知症のわたしから、  
10代のあなたへ』

さとう みき//著  
岩波書店 (Y493ニ)

43歳で若年性認知症の診断を受けた著者が認知症当事者として活動する日々をつづります。認知症専門医による認知症コラムもあります。



『思い出のマーニー』

ジョン・G.ロビンソン//[著]  
新潮社 (B933オ)

肉親を亡くし、里親に育てられているアンナ。彼女は、自分は「外側」の人間で、自分以外は「内側」にいる人間だと区別をして、心を閉ざしながら暮らしていた。喘息の療養のため海辺に暮らす老夫婦に預けられたアンナは、マーニーという少女と出会う。やがて、友達になった二人だが、マーニーは突然姿を消してしまう。



『太陽ときみの声』

川端 裕人//作 朝日学生新聞社 (YFカ)

高校2年生でサッカー部の一輝は、3年生が引退した後のキャプテンを任される。自分なりのサッカー部をつくろうと意気込んでいた矢先、目の見え方に違和感を感じる。検査すると極端に視力が落ちていることがわかる。両目とも失明するかもしれないという不安な気持ちを抱える中で一輝はブラインドサッカーの存在を知る。



『「オードリー・タン」の誕生』

石崎 洋司//著 講談社 (Y289オ)

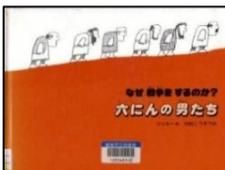
8歳でプログラミングを始め、15歳で会社の起業に参画し、35歳で台湾史上最年少の大臣に起用されたIQ180の天才オードリー・タン。順調に人生を歩んできたようにみえますが、学校にうまくなじめず、不登校になったことも。そんなオードリー・タンが現在のように活躍するまでを描いた伝記です。



『六にんの男たち』

デイビッド・マッキー//作 偕成社 (Eロ)

平和に暮らすことのできる土地を探していた六人の男たち。やがて長い時間をかけて見つけた土地でせっせと働き、次第にお金持ちになっていく。しかし、もっとお金持ちになりたいという欲が出てきた男たちは、他の人が住む農場を乗っ取ることを思いつくのだが…。



使ってみませんか?

へきなん電子図書館

★だれが使えるの?

→図書館の利用者カードを持っていて、碧南市に住んでいる、または碧南市内の学校に通っていたり、働いている人です。

★どうやって使えるの?

→碧南市民図書館HPから「へきなん電子図書館」にアクセスして、ログインすれば使えます。ログインにはパスワードがいりますので、利用者カードを作るときに忘れずに申請を。また、メールアドレスも必要なので、自分で登録することも忘れずをお願いします。(パスワードの登録は利用者カードを作った後でもできます。わからないことがあったら図書館のスタッフに声をかけてください。)

スマホで本が読めます



こちらからアクセスできます